

キャンパス通信 ippeki



01 特集/  
フローレンス・  
ナイチンゲール記章  
受賞記念講演会

- 02 TOPICS  
03 クラブ・サークル紹介  
学年紹介  
05 1年生/2年生/3年生/  
06 4年生/大学院/学内行事  
07 キャンパス日記  
09 APシンポジウムを開催しました  
10 看護部長からのメッセージ/研究室訪問

がんばれ共和国  
阿蘇ぼう!キャンプ

第15号  
2018.4▶2018.9



ひとりを見る目、その目を世界へ

 日本赤十字九州国際看護大学  
Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

# フロレンス・ ナイチンゲール記章 受賞記念講演会

5月27日(日)に開催しました講演会には、看護師を目指す高校生など150名を超える方にご参加いただきました。日本赤十字社福岡県支部創設130年記念事業でもある本会には、九州各地の赤十字関係者の皆様にも多数ご来場いただき、会場は満席となりました。

名古屋第二赤十字病院 副院長兼看護部長である伊藤明子氏(本学大学院一期生)による赤十字看護師としての救援活動と自身の歩みとして、学生時代から臨床を経て世界各地の紛争地域での活動や看護教育に携わった経験など、赤十字の理念がどのような活動につながっているのかわかりやすくお話いただきました。

第二部では、会場の大学生から「紛争地で勤務する中で困難な状況にどう対処したのか」、高校生から「高校生として今できること」を教えてほしいなど活発に質問があり、予定していた時間ぎりぎりまでお答えいただきました。

平時だけでなく戦時においても、傷病者、障がい者・紛争や災害の犠牲者に対して献身的な活動を行い、公衆衛生や看護教育の分野で顕著な実績を残した看護師として世界最高の賞を受賞された伊藤氏による示唆に富むお話が、来場された方の今後の活動につながりましたら幸いです。



## 登壇者からの コメント

国内外における数々の災害及び紛争地域でのご経験から、危機的状況下での精神力や判断力、また異文化の成員からなるチームを束ねる力を身に着けたとのことでしたが、伊藤さん自身の「人を思う心」がそれら学びの揺るがない基盤となっているように感じました。日々看護を学ぶ身だからこそ、今回の講演を聞き、看護師になる上での責任を改めて感じることができました。ありがとうございました。

3年 岡村 里美

赤十字の一員として心掛けていることや看護師として大切にしていることなど私達赤十字の看護学生にとって参考になるお話ばかりでした。海外活動やキャリアアップについてのお話では刺激を受け、今後のやる気につながりました。

4年 山本 祥子



## 「がんばれ共和国 阿蘇ぼう! キャンプ」にボランティアとして参加

このキャンプは、難病と闘っている子どもたちとその家族が病気や障害を乗り越え、互いに交流し新しい友達を作ることを目的に、「難病の子ども支援全国ネットワーク」が開いているものです(2018年8月17日～19日開催)。運営の方々と私たちボランティアは「みんなが楽しく安全に」を目標に日々準備を進めてきました。このキャンプでは、難病を持つ子どもさんをキャンパー、その兄弟・姉妹をキッズと呼びます。キッズとご飯を食べたり一緒にお風呂に入ったりと、日常生活をともにしました。また、熱気球に乗ったり、ステンドグラス作り体験をしたり、キャンプの企画の1つである夏祭りに参加したりしました。このように密な時間を過ごしているうちに家族の一員になったような感覚がありました。3日間という限られた時間の中でとても濃い時間を過ごしたように思います。このキャンプで特に思い出に残っていることが2つあります。

1つめは、家族と家族担当のボランティアでみた星空です。福岡では見ることができないたくさんの星が瞬いていて、思わず感嘆の声を上げました。人生で初めて天の川を見ることができ、感動しました。キッズをおんぶしながらみんなで空を見上げて星座を観察したあの夜は私にとって一生の思い出です。

2つめは、夏祭りです。私たちは1か月程前から運営の方々の提案により、他校の方々と夏祭りの計画を立てていました。私たちは輪投げの屋台を担当しました。前述したように「みんなが楽しく安全に」を考えながら輪投げを作ることは想像以上に困難であり、何度も学年全員で話し合いながら作製していきました。不安と緊張の中、夏祭りが始まると、会場の中は笑顔と笑い声で溢れていました。最後にあがった花火を見たときに今まで頑張ってきたことやみんなが楽しんでいた光景を思い出し、涙がでました。

私はボランティアとして精一杯一緒に遊んだりコミュニケーションをとったりしながら、信頼を築いていくこと、またそのようにすることで互いに気持ちを預けることができるような関係になることが重要であると感じました。

私はこの3日間でたくさんの思い出と学びを得ました。卒業してからもキャンプに参加したいと考えています。今回学んだ子供たちの気持ちを大切にしながら看護師としてまた参加しようと思っています。

記 4年 松村香奈  
(紙面都合により一部抜粋、全文は本学ホームページに掲載)



## 第1回 オープンキャンパス2018を開催しました

7月29日(日)、台風の接近にも関わらず多数の高校生・保護者の皆様に本学オープンキャンパスへご来場いただきありがとうございました。

今回は、学生によるキャンパスツアー、在校生との交流コーナー、海外研修報告、サークル紹介に加え、授業体験、看護体験コーナー(血圧・骨密度測定、妊婦疑似体験、高齢者体験)、個別相談(学費・奨学金・入学試験)コーナー、赤十字救護車両展示や住宅相談コーナーを開設しました。参加した高校生からは、開会行事で行った本学・赤十字制服コレクションを見て、「受験へのモチベーションがより高まった」、保護者の方からは「ボランティア学生が明るく元気、入試や奨学金制度などの理解が深まった」などの感想をいただきました。第2回は9月23日、11月4日にはミニオープンキャンパスを開催予定です。



キャンパスツアーの様子



制服コレクションを終えた学生、教職員



## English Speaking Society

自分の言いたいことを英語で表現する練習をしています。国際関係や英語を使う仕事に興味がある人、英語がもっとうまくなりたい人など誰でも大歓迎です。



## KDNS

KDNSサークルは、災害時に学生であっても自主的に動くことができるように災害・防災に対する知識を平時より学ぶことを目的としています。これまでに熊本や朝倉での災害に対する活動や学内で災害勉強会などを行ってきました。



## サークルオブピア

このサークルは、「ピア」と「ティンクル」の2種類のボランティアがあります。ピアは、ボランティアの対象が幼児・小児から高齢者までの地域のボランティア活動です。ティンクルは、赤十字青年奉仕団のボランティア活動としてキャンドルサービス等を行っています。



## PEACE

PEACEはカンボジアの孤児院を支援する目的で3年前に発足したサークルです。学祭で得たお金や文房具を孤児院に寄付するといった活動を行ってきましたが、今後は国内外問わずに活動の幅を広げようと方向性を模索中です！



## 学生奉仕団

街頭で献血参加の呼びかけを行ったり、献血者を増やすための話し合う合宿を行うなどの活動を行っています。年齢を越えて多くの関わりがあり、ものの考え方や視野が広がります。



## 弓道部

2017年度より、宗像市弓道連盟のご指導のもと、毎週練習に励んでいます。きれいな施設で練習することができます。弓道を楽しみながら、上達を目指して一緒に部活をしませんか！



## 書道部

私たち書道サークルは、書と音楽を融合させて、「書道パフォーマンス」という形で、書道の楽しさを伝えるべく、活動しています。毎週月曜日、練習に励み、大学祭や様々なボランティアに挑戦しています。



## 吹奏楽部

吹奏楽サークルです！学校行事を中心に活動しています。演奏会前は集まって練習しますが、それ以外は個人的にアンサンブルを組んで、来れる日に来て練習するなど、とても自由なサークルです。一緒に音楽を楽しみましょう！



# クラブ・サークル紹介

CLUB AND CIRCLES

## 授業が終わったら、もう一つの私の時間

学生が自らの意思と行動力で取り組む課外活動は、人との出会いや体験を通じ、看護の学びを深める貴重な機会へと繋がっています。

### ゆいまーるのわ

めんそーれ!ハイサイ!いちやりばちょーで精神!!私達は、沖縄の伝統の踊り、エイサーを踊っています。主に学校行事や祭り、老人ホームなどで踊りを披露。み～んな仲良しで楽しいサークルです。



### MOL (Music Of Life)

活動は、大学祭の後夜祭で演奏したり、新入生歓迎会で演奏したりしています。初心者でも十分楽しめるサークルです。



### バドミントンサークル

練習日は週2回、初心者から経験者までみんなで楽しく練習し、日々の運動不足解消や試合で勝つことを目標としています。



### Red Cross

バスケットサークルです。初心者も経験者も関係ない!!バスケを楽しくプレーするのがモットーです。



### 学生自治会執行部

所属している学生全員が主体となって活動しています。執行部は、新入生歓迎会や卒業生のためのイベントなどを企画、運営。学生が要望する活動を応援しています。



### SLAV (Sign Language And Volunteer)

手話教室に週1回講師を招き、楽しい雰囲気の中で手話の学習を行っています。また、地域のボランティア活動に積極的に参加しています。



### 愛球会

体育館やグラウンドで、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テニス、サッカーなどの球技を、遊び感覚で楽しんでいます。仲間との触れ合いも大きな魅力です。



### 牛蛙の会

週2回、バレーボールの練習をしています。初心者も経験者も関係なく、皆でとにかく楽しく本気でプレーしています。学年を越えての交流も活発に行っています。



### DnD (Dance Nurse Dance)

大学生活楽しく過ごしたいならほかの大学に行くこのサークルがオススメです!ダンスも楽しめて、友達も増える!ぜひ一緒に踊りましょう。



# 学 年 紹 介

Class Introduction



Class Introduction

## アカデミック・アドバイザー制度 (AA) への取り組み

1  
年生

高校生から大学生へとこれまでの生活を一変しなくてはならない1年生には、講義の時間の長さ、教員との関係性などで戸惑うことが多くあります。そんな時、気軽に相談できる先輩や友人づくりのきっかけになる仕組みづくりを目的にAA制度が出来ました。

1名の教員に1年生～4年生各4名程度で1つのゼミを作ります。そうすることで、学年を超えた主に生活に関する相互支援を強化でき、4年間同じ教員のゼミに入ること個別の学生対応ができると期待しています。

さて、1年生の反応はどうでしょうか？

4月の初めての顔合わせでは、学生は緊張気味の表情でしたが、徐々に変化が見られました。AAの担当教員が学生間の自己紹介をゲーム形式で行ったり、エクササイズを取り入れて他のゼミと共同開催を行ったり等でゼミを体感することで変化が出てきたようです。

その後、「先輩の話から、学習方法がわかった」「履修方法の注意点がわかった」などのポジティブな感想がされました。印象的だったのは、ゼミ終了後も先輩と和やかな表情でいつまでも話している1年生がいたことです。まだ始まったばかりの新制度ですが、1年生だけでなく学生全体の絆を深めるきっかけになればと期待しています。現在、1年生は初めての臨地実習中です。次回のAAゼミでの感想が楽しみです。

学生支援委員長



Class Introduction

## 看護過程演習

2  
年生

私達2年生は看護過程の展開を中心に講義に取り組んでいます。看護過程の展開では、患者さんの情報を集め、プロフィール、アセスメント(看護診断)、全体図や全体像を作成し、看護問題や共同問題を明確化した後、看護計画を立てる、といったことに取り組んでいます。個々によって症状や状態、性格など大きく違うので個性が非常に重要だと感じています。

また、看護過程の展開に関する科目「看護技術Ⅱ」では、薬の与薬、点滴、身体麻痺など特徴を持った患者さんに行う看護技術Ⅰの応用など技術の練習をしています。その中で自分が最も感じた事は、患者さんの個性に対応する難しさです。看護過程の中ではアセスメントが必要不可欠です。患者さんの性格や、行動など多くの情報からそれぞれの患者さんにアセスメントをしなければなりません。また、与薬では取り違いなどが起こると、患者さんの健康に大きな影響を及ぼすことになります。

このように、適切な看護を提供する難しさを身をもって痛感しました。これからの実習では、沢山の患者さんに深く接する機会が増えていきます。そこで、受け持ちの患者さんの個性に応じた看護過程を展開できるよう、これからの実習や勉強を頑張っていきたいと強く思いました。

2年生 西尾悠



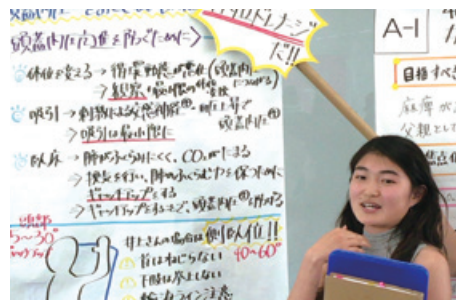
Class Introduction

## プレゼンテーションを通して学びを深めました

3  
年生

クリティカルケアⅡの科目では、実際にシミュレーターや模擬患者から情報をとり、考え、実践を通して学びを深めます。これまでに得た知識を応用し、患者さんとその家族に予測される看護問題に対し、必要となる看護計画と援助について発表しました。発表までの準備期間、グループワークや文献検索など、主体的な学習が求められ、プレゼンテーション資料が作成できるか不安でしたが、これまで積み上げてきた学習成果を発揮し、発表や質疑応答ができました。この発表を通して得た力や、各グループの発表を聞いて何倍にもなった知識と技術を、9月から始まるレベルⅣ実習で生かしていきたいです。

3年生 大字菜々子



4  
年生

Class Introduction

## 学生最後の実習を終えました

4年最後の専門性強化実習で、神経難病である筋委縮性側索硬化症の患者さんを受け持ちました。この実習は、目的、目標、実習方法を自分で構成し、自分が目指す専門性を伸ばすため、より実践的な看護を展開します。私は、この最後の実習で「その人がその人らしく最期を生ききる」ための看護について学んできました。病院という限られた環境の中でも患者さんは生活者であり、望まれる生活や食事について関わりの中から汲み取り、少しでも希望に添えるようケアへ繋げることの大切さを学ぶことができました。4年間の集大成として有意義な実習を行うことができました。

4年生 実崎歩美



Class Introduction

## 大学院研究室をリニューアルしました

大  
学院

4月から、ゲート棟2Fを本学大学院講義室・研究室としてリニューアルしました。

生まれ変わった施設の内覧会を4月2日に開催しました。

今回、参加した大学院生からは、下記のようなコメントが届きましたので紹介いたします。「大学院生共同研究室の内覧会に参加しました。明るく広い研究室で、多くの研究資料を収納できるスペースも確保されていました。また、おしゃれなソファもあり、学生同士でちょっと息抜きもできるように配慮されていました。4月からこの環境の中で学ぶことが楽しみです。」



Class Introduction

## 一次救命処置研修を行いました

学内  
行事

本学では、学内コードブルー※システムを作り、AED (Automated External Defibrillator:自動体外式除細動器)を6台設置し、毎年、教職員全員対象のBLS (Basic Life Support:一次救命処置)研修を実施しています。

「その時」は、いつ、どこで、誰に起こるかわかりません。だからこそ備えられることをしっかり備えています。

※突然の心臓停止・呼吸停止、もしくはそれに近い状態の傷病者を発見した場合に起動されるコード



## インドネシア アイルランガ大学短期留学に行ってきました

2018年3月25日～3月31日、私たちはインドネシア国立アイルランガ大学の短期留学プログラムに参加しました。まだ1年生(当時)ということもあり、学びが十分ではない状態であったにもかかわらず、アイルランガ大学の教職の皆様、学生の皆様、医療施設の職員の皆様は温かく迎え入れてくださいました。

今回のプログラムを通して基礎学習の大切さを痛感しました。これまでの復習はもちろん、これから始まる講義や実習にも積極的に取り組み、勉学に励んでいきたいと思います。



## 新入生歓迎会を開催しました

4月26日にアスティで新入生歓迎会を行いました。この会は2年生自治会員にとって、初めて自分たちで主催、企画、買い出しまでを行った行事です。

プログラムの最初はサークル紹介。今年のサークル紹介は14サークルで、ダンスサークルや弓道、学生奉仕団、書道など、どのサークルに入部しようか悩む1年生も多かったのではないかと思います。サークル紹介の後は、お待ちかねだったビンゴ大会です。ビンゴの司会に笑いが巻き起こり、豪華賞品を手にしようと、楽しく参加している姿が見られました。1年生の笑顔に、企画した私たち2年生も笑顔になることができ、無事に新入生歓迎会の幕を閉じることが出来ました。



## 日本赤十字社福岡県支部に 遥碧祭の売上を寄付しました

5月8日、日本赤十字社福岡県支部にて寄付金の贈呈を行いました。贈呈式には、大学を代表して平成29年度遥碧祭(大学祭)実行委員長と学生自治会長の2名が出席いたしました。この寄付金は、昨年11月5日に開催した遥碧祭でのバザーの売上金です。今回は、福岡県朝倉市を中心にした九州北部豪雨災害支援として寄付いたしました。私たちは被災直後、朝倉市という身近な場所で、甚大な被害が出たことに心を痛めました。同時に、私たちにできることは何かを考えさせられました。これらのことから赤十字のネットワークを通じて支援したいと思い、今回の活動に至りました。この寄付金が被害に遭われた方々の力になることを願っています。





## 院生交流会に参加してみて

6月1日に開催された院生交流会に参加しました。今年の4月に入学された1年生も交えて、博士課程の方、先生方も集まり、お昼ご飯を食べながら有意義な話を交わすことができました。博士課程で学ぼうと思った理由、仕事と学業の両立のコツ、研究や実習を乗り越えるためのアドバイスだけでなく、修士課程を卒業された方からの応援メッセージも読み上げられました。今回の院生交流会は、1年生にとっては、今後の大学院生活を送る上でのやる気をもらう機会となり、2年生にとっては今後の研究や実習を乗り越えるために自己を奮い立たせる良い機会となったのではないかと思います。企画していただいた学務委員の方々や先生方、ありがとうございました。



## 寛仁親王妃信子殿下が本学を御視察になりました

7月14日、「アジア太平洋子ども会議・イン福岡」30周年記念行事に寛仁親王妃信子さまが来福され、本学を御視察になりました。信子さまは、日本赤十字社名誉副総裁であり、平成13年に本学を御視察されてから今回が2度目のご訪問です。

大塚義治日本赤十字学園理事長、伊豆美沙子宗像市長、花田鷹人宗像市議会議長、松本義明日本赤十字社福岡県支部事務局長、田村やよび本学学長による出迎えののち、学内をご見学いただきました。

はじめに、田村学長による本学の概要説明を行い、学生が共同学習するための空間であるラーニングcommonsに移動後、学生サークル「KDNS-Kyushu Disaster Nursing Study group-」による熊本地震災害や昨年の九州北部豪雨災害の活動、学生奉仕団の献血への取り組みを発表しました。

信子さまは私たちの活動報告に熱心に耳を傾けてくださり、KDNSについて「とても素晴らしい活動ですのでぜひ続けてください」「被災者の方との交流を続けてください」と声をかけてくださいました。また、献血の活動には「献血者確保のためにも頑張ってください」「献血してくださった方に、メール等を送って献血の情報提供をしてみてもどうですか」など積極的に話しかけてくださいました。

私たちが行ってきたこれまでの活動に対する激励をいただき、より一層この活動に対して意欲と向上心が湧きました。このような貴重な場をいただいたことをこれからの学生生活や将来へ活かしていきたいです。





基調講演の様子

# APシンポジウムを開催しました

AP Symposium

2018年8月24日

8/24(金)、本学にてAPテーマV\*地域別研究会およびAPシンポジウムを開催し、学内外合わせて95名のご参加をいただきました。

※卒業時における質保証の取組の強化

午前中は、テーマV幹事校の日本福祉大学様主催で地域別研究会が行われ、ディプロマ・サプリメント(学位証明書補助資料)についての取組や様式化に際しての今後の課題等について、グループワークによる討議がなされました。

午後からのシンポジウムでは、九州大学基幹教育院の山田政寛准教授をお招きし、基調講演として、「ラーニング・アナリティクスを基にした学修成果の可視化」をテーマに講演していただきました。今後の活用がとても楽しい分析結果をご紹介いただき、会場からも活発な質問が出されました。

また、「専門職育成のためのディプロマ・サプリメントー基礎教育と現任教員とのシームレスな接続をめざしてー」をテーマに、東海大学短期大学部 山本康治教授、福岡歯科大学 教育支援・教学IR室 内田竜司准教授、本学教授 小林裕美 3名のシンポジストによるそれぞれの専門分野の立場からの取組の発表と、本テーマに対する多角的な意見交換もできました。

本シンポジウムを通して、AP事業を今後進めていく上で多くの示唆が得られました。皆様、ご多忙中ご参加いただき、ありがとうございました。深く感謝いたします。

AP実行委員長 小林 裕美



全体討議の様子

AP(大学教育再生加速プログラム)は、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援することを目的とした事業。

本学は2016年度に提案事業テーマV卒業時における質保証の取組の強化に選定された。

※詳細は本学ホームページをご覧ください。



各シンポジストの発表の様子

# 看護部長 からの メッセージ

M E S S A G E

わたしたちと一緒に  
赤十字の未来をつくりましょう

佐賀 SAGA 唐津赤十字病院  
看護部長 加藤 英子



唐津赤十字病院は、佐賀県北西部の唐津市の中心部に位置しています。平成28年8月に新築移転しました。移転当時は、電子カルテ導入、外来ブロック制、病棟再編成、パートナーシップナーシング導入、変則2交替導入と何もかもが同時であり、混乱しましたが、現在は落ち着いています。働きやすい安全で安心な看護を目指しています。

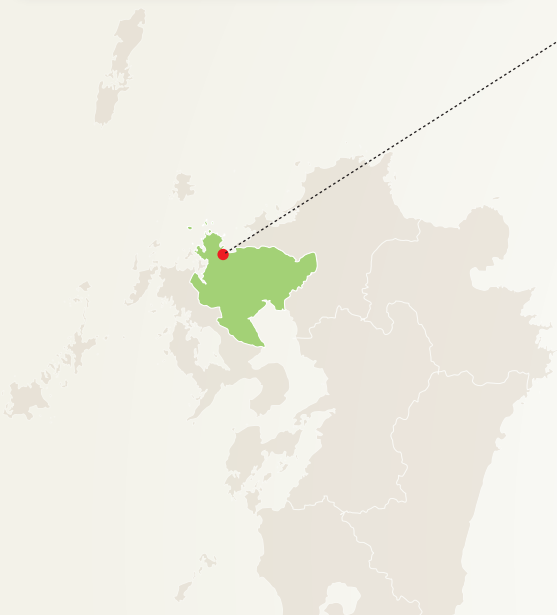
平成29年4月には地域連携小児救急センターが開設され、夜間休日の小児一次救急も担うこととなりました。少子化が進む中で、重要な小児医療対策の役割を唐津赤十字病院が担っていくという自覚を持って対応しています。このように、県北部の地域中核病院としての役割を担う環境は整備されました。今後は中身の充実が必要で、平成30年9月には病院機能評価を受審予定です。患者さん中心の医療や看護が出来ているか色々な視点から見直しています。

平成29年度は、働き方改革を早急に行うことが必要になりました。看護部は、前残業をやめ始業時間からの仕事開始を徹底し、各部署で業務改善を行いました。猛烈に働くことが美德だった時代は終わりを告げ、私たちは意識改革を求められています。看護の質を低下させずに、お互いに助け合い、協力し合い、質の高い労働を目指しています。

2025年以後の人口を見据えて、病院の機能分化が強力に推し進められる中、今後は急性期の役割維持は難しいと言われていています。入院患者の高齢化や認知症患者が増加していくなかで、看護師は急性期治療に関する知識を向上させながら、専門技術の提供、認知症ケア、緩和ケア、在宅支援等多くのことが求められています。

このような世の中の変化について行くには、変革を恐れず柔軟な対応が求められると考えます。常に何を指して看護を行っているかを忘れずに、組織のみならず地域の中での役割を果たしていく必要があります。大学時代に仲間とともに、幅広い知識と柔軟な発想で看護を学んでください。

卒業生の皆様も毎年増えています。福岡から1時間足らずの距離に位置し、風光明媚なところです。ぜひ唐津にも関心を向けてください。



## 研究室訪問



リベラル教育  
鈴木 清史 先生

わたしは文化人類学という学問分野を専門にしています。文化人類学は世界のさまざまな民族の人の結びつき方(社会)、生活や思考の様式を比較研究する学問です。民族とは、共通の言語、共通の生活様式そして同じ集団に帰属しているという意識(アイデンティティという)を持つ人びとの集団です。言語が第一の要件に挙げられているのは、人間の思考や意識は、使う言葉によって規定されがちだからです。例えば、英単語のbrother/sisterに対応する邦訳語は「兄弟/姉妹」です。日英の単語には、性別(男性)、人間の結びつき(ある人物との血縁関係)の要素が含まれています。ところが、それらに加えて日本語の「兄弟/姉妹」には、年齢(の上/下)も含まれています。つまり、日本語では人間関係において年齢が重要な要素になっているのです。ですから、日本語を使う人びとは相手によって丁寧語、尊敬語、謙譲語を使い分けています。またその使い分けにはなんら違和感を持ちません。こうした価値観やものの考え方、文化に共有されている要素を文化といい、文化人類学者は、世界中に出かけさまざまな文化の研究を行っています。研究のために海外に出かけるのは、自他の文化の差が明確で研究対象にしやすくと想定しているからです(自分のことは気がつきにくい)。グローバル化が進んでいるとはいえ、地球上では今なお6000以上の言語が使われており、それと同じくらいの文化が実践されています。もちろん最近ではある職業集団に共有されている価値観も研究の対象となることが多くなっています。



大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになって一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名付けられました。

「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、学生・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲しいとの願いが込められています。

題字：吉田 歩さん（平成26年度 学部卒業生）／福岡県・柏陵高校出身



## 日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

発行：日本赤十字九州国際看護大学 企画情報室

〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1丁目1番地  
Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021

<https://www.jrckicn.ac.jp/>

### 寄付のお願い

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集しています。寄付金には、一定の税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、本学ホームページでご確認をお願いいたします。